



北見工業大学

学報

平成16年 7 月 事務局総務企画課発行 第204号

北海道中小企業家同友会オホーツク支部との包括連携実施覚書を締結



Kitami Institute of Technology

(関連記事 18ページに掲載)

目 次

会議報告	社団法人国立大学協会第1回通常総会……………3 国立大学法人学長・大学共同利用機関法人機構長等会議……………3
入 試	平成17年度入学者選抜要項の公表……………5 平成17年度大学院工学研究科博士課程学生募集要項の公表……………7 平成17年度編入学試験（推薦による選抜）の実施……………8 平成17年度編入学試験（学力試験による選抜）の実施……………8
研究助成	平成16年度研究助成金交付決定……………9 平成16年度民間等との共同研究の受入状況……………9 平成16年度受託研究の受入状況……………10 平成16年度奨学寄附金の受入状況……………10
人 事	人事異動……………12 新任者紹介……………12 海外渡航……………13
受 賞	二俣正美教授ら「高温学会論文賞」受賞……………14 博士後期課程修了謝晋君「砥粒加工学会論文賞」を受賞……………14 白川龍生助手 路面評価に関する国際シンポジウム 「優秀発表・論文賞」を受賞……………16
諸 報	キャンパスマスタープラン（学内施設長期計画）について……………16 北海道中小企業家同友会オホーツク支部との包括連携実施覚書を締結……………18 学長主催特別講演会の開催……………19 学生を対象に知的財産セミナーを開催……………19 大学祭に合わせキャンパス公開ツアーを実施……………20 オープンキャンパス（大学説明会）を実施……………21 本学主催国際ワークショップ開催のお知らせ……………22
日 誌	6月・7月……………23

人事異動については8月1日異動分まで掲載しました。

＝会議報告＝

社団法人国立大学協会第1回通常総会

日 時：平成16年6月17日(木)
場 所：学士会館（東京都）
出 席：常本学長

去る6月17日に開催された社団法人国立大学協会の総会では、次のような事項について協議が行なわれた。

- 1) 新国大協では、理事会を初めとした10の委員会において事業計画を立てているが、各委員会から計画内容が報告され了承された。なお、本学は教育・学生委員会に所属することになった。
- 2) 平成15年度決算に続き、平成16年度予算が原案どおり承認された。なお、新国大協は活動する協会を目指し多くの事業を企画しているが、それに伴い各大学の会費が値上がりし本学も240万円を負担することになった。
- 3) 本年度から国大協は支部組織を置くことになり、北海道初め10ブロックで支部が結成された。今回は各支部の協議事項、今後の方針などが説明され了承された。
- 4) 国大協事務局は、各大学からの出向者を含め組織を拡大したのに伴い、これまでの東大内の第2学士会館から神田にある学術総合センターに移転したが、これに伴う定款などの改正が承認された。
- 5) 新国大協のロゴマークを公募していたが、今回選考が終了したことが報告され、その選考結果が了承された。
- 6) 平成17年度の国立大学予算の確保に向けた文教関連国会議員への要請活動、あるいは経済財政諮問会議の骨太方針に国立大学法人支援を求めたことなどが説明された。なお、シーリングの動向などは参議院選挙があり不透明であるが、支部組織においても国立大学の役割などの広報活動を進めることとなった。

国立大学法人学長・大学共同利用機関法人機構長等会議

日 時：平成16年6月18日(金)
場 所：如水会館（東京都）
出席者：常本学長、柴崎事務局長

国立大学協会総会に合わせて文部科学省主催の学長会議が6月18日に開催され、文部科学省の最近の取組などについて説明があった。

1) 高等教育局長説明

① 平成17年度の運営費交付金の取扱

平成17年度の運営費交付金は、先に提出した計算式に従った額が保障されると考えて良い。したがって、学内の資源を柔軟に配分し、新たな教育研究組織の編成や教育研究プロジェクトの実施などを積極的、機動的に行ってもらいたい。

② 平成17年度の新たな経費措置

- ・特別教育研究経費：教育改革、研究推進、拠点形成、連合融合、特別支援の5分野における積極的な取組を支援する。
- ・研究科等の教育研究組織の整備を行なう場合に、学内資源の配分で対応が困難で特に必要な場合には、運営費交付金の算定基準である教育研究費を「教育研究組織係数」で補填し、必要な経費を措置する。

③ 平成17年度の文部科学省予算に対するシーリングについて

8月には政府のシーリングの方針が出ると思われるが、文部科学省予算も2%程度減額される可能性がある。法人化直後の大学の活性化にかかわる問題であり、大学に対しては最小限になるように努力する。仮に運営費交付1兆2400億円が対象となった場合、減額総額は240億円になるが、年次計画で約0.6%（約90億円）削減でき、病院も2%の効率化を求めているので約70億円が減額できる。したがって残りは80億円程度になる。最悪

の場合、例えば700億円程度ある特別教育研究経費が1割程度減額になる可能性もある。

④ 法人経営上の諸問題

・人件費：これまでの教職員定員管理から大学独自の人件費管理に移行した。学長のリーダーシップの下で人事管理を進めてほしい。なお、人事院勧告があっても運営費交付金には直接影響しないが、人件費の目安としてもらいたい。

・病院運営：地域貢献の最も明確なものであり、学長が最高責任者として対応してほしい。2%の効率化は達成可能と考えているが、達成できない場合には改善策を提言することになる。

・余剰金の扱い：余剰金は経営努力の認定が必要となるが、独立行政法人の場合、個々の項目について行なうことになっているがほとんど認められていない。大学の活性化を考えた場合、独立行政法人と同様では運用できないと思われるので、大学全体としての包括的経営努力を認定できるよう財務省と協議中である。

・国立大学法人評価：国立大学法人評価委員会と年度評価について協議中であるが、年度評価においては教育研究の個々の評価は行なわない。基本的には進捗状況の確認になる。

2) 研究振興局長説明

① 科学技術の戦略的重点化

国家戦略としての重点分野を中心に、質の高い基礎研究の推進と優秀な次代を担う若手研究者の育成を進める。

② 科学技術システムの改革

競争的資金の適切な配分・運用方法を検討し、世界水準の研究教育拠点を形成する。なお、科研費などで予算運用面の不正がありモラル向上に努めてもらいたい。また、産学官の連携が推進されているが、知的財産の活用などを含めて拡大してもらいたい。

③ 情報発信

科学技術の振興に多くの予算を投入してきたが、その成果を国民に積極的に発信してもらいたい。今後も科学技術予算の獲得に努力

するが、大学側の努力も期待したい。

3) 文教施設企画部長説明

① 法人化に伴う変更

・7箇所あった工事事務所を東京に一元化し、迅速な対応を可能にした。

・建物関連の予算が運営費交付金と別項目になった。なお運営費交付金には維持費が含まれているが、利用は大学が決めることになる。適切な利用を期待する。

② 施設緊急整備5ヵ年計画

・5ヵ年計画での改修等は予定の63%に達した。多くが補正で進められたが、本年度も補正予算がないようなので1000億円で進めることになる。このうち500億円は財投などの返還になるので多くのことはできない。老朽化の改修は50%程度であり、今後は老朽化を中心に整備する。

・施設整備の選定は、評価項目にしたがって有識者による検討会議で協議して採択する。高い成果が期待できる、施設マネジメントがしっかりしているなどが重要。

・今後も新5ヵ年計画を作る予定であるが、新たな改築等による成果を示す必要がある。

=入試=

平成17年度入学者選抜要項の公表

(入試課)

平成17年度入学者選抜要項が7月に公表されました。概要は以下のとおりです。

○募集人員 (人)

学 科	入学定員	募 集 人 員		
		前期日程	後期日程	推薦入学
機械システム工学科	80	40	28	12
電気電子工学科	80	42	30	8
情報システム工学科	60	25	25	10
化学システム工学科	60	30	18	12
機能材料工学科	50	22	22	6
土木開発工学科	80	34	34	12
合 計	410	193	157	60

注 後期日程の募集人員には、各学科とも帰国子女特別選抜の募集人員若干人を含みます。

○選抜方法等

一般選抜

	前 期 日 程	後 期 日 程
選抜方法	大学入試センター試験の成績及び出身 学校長から提出された調査書の内容を 総合して行う。	大学入試センター試験の成績、本学が行 う個別学力検査の成績及び出身学校長 から提出された調査書の内容を総合し て行う。
出願期間	平成17年1月24日(月)から平成17年2月2日(水)まで	
試 験 日	個別試験は課さない	平成17年3月12日(土)
合格発表	平成17年3月7日(月)	平成17年3月20日(日)

推薦入学

選抜方法	学校長より推薦された者について、調査書、推薦書の内容及び小論文、面接の結果を 総合して行う。
出願期間	平成16年11月1日(月)～平成16年11月8日(月)
出願要件	全国の国公私立高校若しくは中等教育学校を平成17年3月卒業見込みの者で、高等 学校若しくは中等教育学校における学習成績・人物が優れ、健康状態が良好で、かつ、 学校長が責任を持って推薦できる者で以下に該当する者 ①調査書の国語、数学、理科、外国語の評定平均値が3.5以上の者 ②高等学校若しくは中等教育学校において、次の科目を履修した者 国語(国語Ⅰ)・数学(数学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・A・B)・理科(物理ⅠB・化学ⅠB)・ 外国語(英・独・仏・中・韓のうち1科目) ※工業に関する学科等については、別に定める
選抜期日	平成16年12月3日(金) (小論文・面接)
合格発表	平成16年12月15日(水)

帰国子女特別選抜

選抜方法	大学入試センター試験及び個別学力検査を免除し、成績証明書等の成績、小論文、面接の結果を総合して行う。
出願要件	略
出願期間	平成16年11月1日(月)～平成16年11月8日(月)
選抜期日	平成16年12月3日(金) (小論文・面接)
合格発表	平成16年12月15日(水)

○試験教科・科目・配点

		教 科	科 目	配 点	合 計	
前 期 日 程	センター試験 (5教科7科目)	国 語	国Ⅰ、国Ⅰ・Ⅱから1科目	50	700	
		社 会	地歴または公民から1科目	50		
		数 学	数Ⅰ・A	1科目		125
			数Ⅱ・B、工数	から1科目 注①		125
		理 科	物ⅠA、物ⅠB	から1科目 注②		100
			化ⅠA、化ⅠB	から1科目 注②		100
	外国語	外国語から1科目	150			
	個別学力検査	課さない				
後 期 日 程	センター試験 (4教科6科目)	国 語	国Ⅰ、国Ⅰ・Ⅱから1科目	50	700	
		数 学	数Ⅰ・A	1科目		50
			数Ⅱ・B、工数、情報	から1科目 注①		50
		理 科	物ⅠA、物ⅠB	から1科目 注②		50
			化ⅠA、化ⅠB	から1科目 注②		50
	外国語	外国語から1科目	150			
		個別学力検査	数 学	数学Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、A、B、C		200
	理 科		物Ⅱ、化Ⅱから1科目 注③	100		

注①：工数、情報を選択できる者は当該科目の履修者等

注②：ⅠAを選択できる者はⅠBを履修しなかった者等

注③：機械システム工学科、電気電子工学科、情報システム工学科志願者は物理必須

平成17年度大学院工学研究科博士課程学生募集要項の公表

(入試課)

平成17年度大学院工学研究科博士課程学生募集要項が6月に公表されました。概要は以下のとおりです。また、平成16年度大学院秋季入学の学生募集要項も同時に公表され、平成17年度入試と同一日程で実施されます。

	博士前期課程	博士後期課程
専 攻	機械システム工学専攻 電気電子工学専攻 情報システム工学専攻 化学システム工学専攻 機能材料工学専攻 土木開発工学専攻	システム工学専攻 物質工学専攻
選 抜 の 種 類	一般選抜 社会人特別選抜 外国人留学生特別選抜	社会人選抜 外国人留学生選抜
募集人員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一般選抜 <li style="padding-left: 20px;">機械システム工学専攻 16人 <li style="padding-left: 20px;">電気電子工学専攻 16人 <li style="padding-left: 20px;">情報システム工学専攻 16人 <li style="padding-left: 20px;">化学システム工学専攻 14人 <li style="padding-left: 20px;">機能材料工学専攻 10人 <li style="padding-left: 20px;">土木開発工学専攻 20人 ・ 社会人特別選抜 <li style="padding-left: 20px;">各専攻とも若干名 ・ 外国人留学生特別選抜 <li style="padding-left: 20px;">各専攻とも若干名 	<ul style="list-style-type: none"> システム工学専攻 7人 物質工学専攻 5人
出願資格	大学を卒業した者又は平成17年3月までに卒業見込みの者 等	修士の学位を有する者又は平成17年3月までに取得見込みの者 等
出願期間	平成16年7月5日(月)～7月9日(金) (出願資格の事前審査受付 平成16年6月7日(月)～平成16年6月10日(木))	
試 験 日	学力試験 平成16年8月23日(月) 面接試験 平成16年8月24日(火)	面接試験 平成16年8月25日(水)
合格発表	平成16年9月8日(水)	

平成17年度編入学試験(推薦による選抜)の実施

平成17年度編入学試験(推薦による選抜)が実施されました。

各学科別の合格者数等は次表のとおりです。

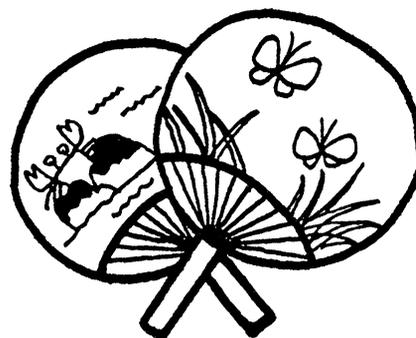
学 科 名	募集人員	志願者	受験者	合格者
機械システム工学科	10	4	4	4
電気電子工学科		0	0	0
情報システム工学科		2	2	2
化学システム工学科		0	0	0
機能材料工学科		0	0	0
土木開発工学科		1	1	0
合 計		7	7	6

平成17年度編入学試験(学力試験による選抜)の実施

平成17年度編入学試験(学力試験による選抜)が実施されました。

各学科別の合格者数等は次表のとおりです。

学 科 名	募集人員	志願者	受験者	合格者
機械システム工学科	若干人	3	3	1
電気電子工学科		0	0	0
情報システム工学科		0	0	0
化学システム工学科		0	0	0
機能材料工学科		0	0	0
土木開発工学科		0	0	0
合 計		3	3	1



= 研究助成 =

N E D O 技術開発機構平成16年度産業技術研究助成金交付決定

(研究協力課)

所 属	職 名	氏 名	研 究 課 題	交付金額
機能材料工学科	助 手	石川 和宏	耐水素脆性に優れた非パラジウム系水素透過複相合金の研究開発	千円 31,083 (間接経費含む)

平成16年度秋山記念生命科学研究助成金交付決定

(研究協力課)

所 属	職 名	氏 名	研 究 課 題	交付金額
機能材料工学科	助 手	村田 美樹	アリアル型ケイ素化合物の合成および炭素-炭素結合形成反応への利用	千円 500

平成16年度 民間等との共同研究の受入状況

(研究協力課)

所 属	職 名	研究代表者	研 究 題 目	民間機関等名
国際交流センター	教 授	山岸 喬	食品中の微量成分の機能性に関する研究	(株)食品機能開発
土木開発工学科	助教授	桜井 宏	寒冷地の文化財的建造物の保存と活用に関する研究	(株)リテック
機械システム工学科	助 手	石谷 博美	ディーゼル機関への燃料ワックスの影響解析	(株)ワーカム北海道
機能材料工学科	助教授	伊藤 英信	廃乾電池亜鉛滓を有効活用した機能性複合セラミックスの開発と応用	北海道立工業試験場
土木開発工学科	助教授	川村 彰	簡易路面計測システムの開発	(株)ワーカム北海道
土木開発工学科	助教授	早川 博	数値計算による河床変動現象の再現性に関する研究	(株)アルファ水工コンサルタンツ
地域共同研究センター	助教授	有田 敏彦	オホーツク圏域における水圏環境保全に関する基礎研究	(株)アルファ水工コンサルタンツ
土木開発工学科	教 授	鈴木 輝之	寒冷地における土木建造物の凍結対策に関する研究	北見環境事業協同組合
機能材料工学科	助教授	宇都 正幸	農業用資材梱包用ポリマーの耐寒性試験研究	ホクレン包材(株)
国際交流センター	講 師	菅野 亨	ペーパーラッジ炭化物の細孔構造制御による高機能材料創製に関する研究	道栄紙業(株)

所 属	職 名	研究代表者	研 究 題 目	民間機関等名
土木開発工学科	教 授	鈴木 輝之	芝のり面の凍上挙動と被害対策	網走地方芝生販売協同組合
電気電子工学科	助教授	柏 達也	メタマテリアル設計CAE技術の開発	(株)豊田中央研究所
電気電子工学科	助教授	熊耳 浩	GPS/GISを用いた除雪支援システム	斜里建設工業(株)
土木開発工学科	教 授	鈴木 輝之	ダイヤモンドプロテクトによる芝のり面の凍上被害防止	三菱化学資産(株)
土木開発工学科	教 授	鈴木 輝之	連続繊維補強土工法による法面基盤の耐凍上性	日特建設(株)

平成16年度累計 60件

平成16年度受託研究の受入状況

(研究協力課)

所 属	職 名	研究担当者	研究題目及び研究期間	委託期間	所要経費
土木開発工学科	助教授	川村 彰	「ドライビングシミュレータによる乗心地評価解析委託業務」平成16年6月～平成16年8月	(独)北海道開発土木研究所	801,965 ^円
電気電子工学科	教 授	山城 迪	「太陽光発電融雪システムの運転評価研究」平成16年7月～平成17年3月	(株)きんでん京都研究所	1,365,000
機器分析センター	助教授	南 尚嗣	「平成16年度GEMS/Waterベースラインモニタリング委託業務」平成16年7月～平成17年2月	(独)国立環境研究所	5,200,000

平成16年度計 3件

平成16年度奨学寄附金の受入状況

(研究協力課)

所 属	職 名	研究者	寄 附 目 的	寄 附 者	寄附金額
土木開発工学科	助教授	早川 博	「海跡湖に注ぐ河川流域の土砂動態に関する研究」に対する研究助成	(財)北海道河川防災研究センター	1,200,000 ^円
土木開発工学科	教 授	佐渡 公明	「北海道内降水量データによる降雨に関する確率水文量の変動特性」に対する研究助成	(財)北海道河川防災研究センター	1,200,000
共通講座	教 授	下村五三男	「アイヌ研究」に対する研究助成	下村五三男	1,275,000
地域共同研究センター	教 授	斎藤 俊彦	「大企業における社内ベンチャーの事例研究」に対する研究助成	(株)福地工業	100,000

所 属	職 名	研 究 者	寄 附 目 的	寄 附 者	寄附金額 ^円
機器分析センター	助教授	南 尚嗣	「次世代鉄鋼迅速オンサイト分析の実用化」に対する研究助成	(社)日本鉄鋼協会	420,000
土木開発工学科	助教授	桜井 宏	「リサイクル材料のコンクリートへの活用に関する研究」に対する研究助成	ニセコ運輸(有)	1,500,000
機械システム工学科	教 授	富士 明良	「生分解性プラスチックビリ砂利の開発研究」に対する研究助成	(株)北翔システム	500,000
国際交流センター	教 授	山岸 喬	「学術研究」のための研究助成	井成製薬(株)	700,000
電気電子工学科	助教授	村田 年昭	「埋め込み型同期発電機の運転効率算定」のための研究助成	(株)K R I	490,000
土木開発工学科	教 授	森 訓保	「工学研究」のための研究助成	(有)アミューズ	100,000
土木開発工学科	助教授	後藤 隆司	「工学研究」のための研究助成	(有)アミューズ	100,000
土木開発工学科	教 授	大島 俊之	「工学研究」のための研究助成	(有)アミューズ	100,000
未利用エネルギー研究センター	教 授	庄子 仁	「工学研究」のための研究助成	(株)豊水設計	100,000
土木開発工学科	教 授	大島 俊之	「工学研究」のための研究助成	(株)豊水設計	100,000
化学システム工学科	教 授	堀内 淳一	「工学研究」のための研究助成	雪印乳業(株)札幌研究所	500,000
機能材料工学科	助 手	村田 美樹	工学研究のため	(財)秋山記念生命科学振興財団	500,000
機械システム工学科	教 授	二俣 正美	工学研究のため	大阪ガス(株)	1,000,000
化学システム工学科	助 手	船木 稔	プエラリア・ミリフィカの微量成分の分析法に関する研究(ミロエストロール)	(有)きらら	500,000
国際交流センター	講 師	菅野 亨	ゼオライトを使った複合資材の開発	(株)共成レンテム	200,000
土木開発工学科	教 授	鈴木 輝之	道路構造の防災対策の検討	(財)北海道道路管理技術センター	300,000
土木開発工学科	教 授	大島 俊之	道路構造の防災対策の検討	(財)北海道道路管理技術センター	300,000
国際交流センター	教 授	山岸 喬	工学研究のため	(株)カイゲン	700,000
土木開発工学科	助教授	宮森 保紀	工学研究のため	(社)日本鉄鋼連盟	400,000
化学システム工学科	助 手	斎藤 伸吾	工学研究のため	(株)シノテスト	500,000

平成16年度累計 46件

=人事=

人 事 異 動

(総務企画課)

○大学発令

発令年月日	現 職 名	氏 名	異 動 内 容
16. 7. 31	学生支援課学生支援係主任	伊 藤 信 子	辞職
16. 8. 1	情報図書課総務係長	渡 部 和 幸	情報図書課課長補佐
"	学生支援課専門職員	小 野 恵 子	情報図書課総務係長
"	情報図書課学術情報係主任	高 橋 定 志	学生支援課専門職員
"	(新規採用)	高 橋 亜 喜 子	総務企画課監査・評価係
"	(新規採用)	吉 原 和 枝	情報図書課学術情報係

新 任 者 紹 介

○総務企画課事務職員に たかはし あきこ 高橋亜喜子 氏

- 昭55. 2. 11生
 平14. 3 盛岡大学文学部卒業
 14. 4 エクナ株式会社
 16. 6 北海道地区国立大学法人等
 職員採用第一次試験合格 (事務)
 16. 8 北見工業大学総務企画課

○情報図書課事務職員に よしはら かずえ 吉原和枝 氏

- 昭54. 11. 15生
 平14. 3 都留文科大学文学部卒業
 16. 6 北海道地区国立大学法人等
 職員採用第一次試験合格 (事務)
 16. 8 北見工業大学情報図書課



海 外 渡 航

○外国出張

所 属	職 名	氏 名	渡 航 目 的 及 び 渡 航 先 国	期 間
土木開発工学科	助 授 授	高 橋 清	世界交通学会にて論文発表及び世界の高速道路に関する研究打合せ (トルコ共和国・イタリア共和国)	16.7.2~ 16.7.15
土木開発工学科	教 授	榎 本 浩 之	アジア・オセアニア地球科学会にて研究発表 (シンガポール共和国)	16.7.5~ 16.7.9
情報処理センター	助 手	嘉 田 勝	Topology and Analysis in Applications にて論文発表 (南アフリカ共和国)	16.7.10~ 16.7.18
機能材料工学科	助 授 授	射 水 雄 三	第13回国際触媒会議にて研究発表 (フランス共和国)	16.7.11~ 16.7.17
化学システム工学科	教 授	吉 田 孝	ポリマー国際シンポジウムにて講演及び 研究打合せ (中華人民共和国)	16.7.14~ 16.7.22
共 通 講 座	教 授	下 村 五三夫	国際民族言語に関する調査及び研究打合せ (ポーランド共和国)	16.7.18~ 16.9.27
共 通 講 座	教 授	大 野 晃	世界農村社会学会にて研究発表及び条件不利地域の調査 (ノルウェー王国・スウェーデン王国)	16.5.8~ 16.6.14
土木開発工学科	教 授	高 橋 修 平	東シベリアの水河調査分布及び雪氷学亭観測 (ロシア連邦)	16.7.25~ 16.8.10
土木開発工学科	助 授 授	亀 田 貴 雄	東シベリアの水河調査分布及び雪氷学亭観測 (ロシア連邦)	16.7.25~ 16.8.10
機械システム工学科	教 授	小 林 道 明	ASME/JSME PVP Conference, design & Analysisにて研究発表 (アメリカ合衆国)	16.7.26~ 16.7.31
化学システム工学科	助 手	齋 藤 伸 吾	The 7th Asian Conference on Analytic Sciencesにて研究発表 (中華人民共和国)	16.7.27~ 16.8.1
土木開発工学科	助 授 授	宮 森 保 紀	第13回世界地震工学会議にて論文発表 (カナダ連邦)	16.7.31~ 16.8.7

○海外研修

所 属	職 名	氏 名	渡 航 目 的 及 び 渡 航 先 国	期 間
機能材料工学科	助 授 授	阿 部 良 夫	Thinfilm2004&Nanotech2004にて論文発表 (シンガポール共和国)	16.7.12~ 16.7.18

= 受賞 =**二俣正美教授ら「高温学会論文賞」を受賞**

(機械システム工学科)

このたび、二俣正美機械システム工学科教授、蓋暁輝サテライト・ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー非常勤研究員、伊藤英信機能材料工学科助教授、斎藤道雄・山田光昭大阪ガス株式会社材料事業化プロジェクト研究員が、高温学会論文賞を受賞されました。表彰式は、平成16年6月9日に大阪大学で開催された高温学会春季学術講演会において行われ、二俣教授が記念講演をされました。

受賞対象論文は、高温学会誌29巻6号(2003)に掲載された「シラン化処理によるフッ素化カーボン複合溶射皮膜の撥水性の改善」です。撥水性を有する表面の利用価値は非常に高く、二俣教授らはバルクとして超撥水性を有するフッ素化カーボンに着目し、その皮膜の形成技術に長年取り組んでこられました。そして、フッ素化カーボン微粒子を充填したアルミニウムチューブを用いた直接溶射法による、アルミニウムとフッ素化カーボンの複合皮膜形成技術を実用

化されています。しかし、この方法で形成した複合皮膜にはアルミニウムリッチな部分が存在し、撥水性にややばらつきのあることが難点でした。そこで、今回論文賞を受賞された研究グループは、溶射後にシラン化処理を行うことで改善を試みられました。すなわち、数種のシラン化剤を取り上げ、これらシラン化剤の強固な単分子層の形成による改善を目指されました。それにはシラン化剤の加水分解と表面での重合反応だけを促進し、シラン化剤同士の縮重合を抑制する必要があることを明らかにし、シラン化剤の溶剤組成、シラン化剤の濃度と反応時間など、複合皮膜のシラン化条件を最適化されました。その結果、ばらつきの改善だけでなく、撥水性自体の向上にも成功されたのであります。

最後に、高温学会論文賞は、1年間に高温学会誌に掲載された論文の中からわずか2編にしか与えられない、たいへん栄えある賞であることもお知らせします。

博士後期課程修了謝晋君「砥粒加工学会論文賞」を受賞

(機械システム工学科)

謝晋君は中国湖北省武漢市の出身で、平成11年4月本学大学院工学研究科博士後期課程システム工学専攻に国費留学生として入学しました。所属研究室は生産システム工学講座生産プロセス工学研究室(田牧純一教授)で、平成14年9月には本学工学博士を授与され帰国しています。謝晋君は、現在、中国華南理工大学機械工程学院現代製造工程研究所(広東省広州市)の助教授として活躍しています。

彼の研究課題は硬脆材料の高効率研削への実用化が期待されているメタルボンダダイヤモンド研削ホイールの高精度ツルーイング・ドレッ

シングに関する研究でした。3年半にわたる研究の結果、無負荷電圧20V以下で発生する放電現象を利用して研削ホイールを精密にドレッシングする「接触放電法」の技術を確立しました。また、円弧群の包絡線で直線を創成する「包絡線創成ツルーイング法」の概念を開発しその実用性を検証しました。

この研究成果は社団法人砥粒加工学会(会員数1400名)の学会誌46巻10号(2002年10月)に「包絡線創成法による平面研削用メタルボンダダイヤモンドホイールの精密ツルーイング」という題目で研究論文として掲載されていま

す。この度、この論文が平成15年度砥粒加工学会論文賞を受賞する栄誉に恵まれました。砥粒加工学会論文賞は、砥粒加工学会誌に過去2年間に掲載された論文（100編程度）を対象とし、内容が優秀と認められるものに対して砥粒加工およびその関連分野に関する学術を奨励し、砥粒加工学の発展を促進することを目的として贈賞されるものです。授賞式は平成16年3月4日に平成16年度第1回通常総会（東京、中央大学駿河台記念館）で行われ、著者全員に対して賞状と盾が授与されました。

謝晋君の受賞に対する喜びと感謝の気持ちは砥粒加工学会誌48巻7号（2004年7月）に論文賞こぼれ話として掲載されています。その一部を紹介します。・ ・初めて女満別空港に降りた時、少し冷たい風が吹いていましたが、清浄な空気を吸っていることを実感しました。また、日本で勉強と研究をするために頑張っていこうと決意を新たにしました。・ ・論文賞の賞状と盾を拝領し嬉しい気持ちで一杯ですが、これからも引き続いて研究を進めるようにという叱咤激励の意味も含んでいることを心に留めています。・ ・日本に留学している間、村上アパートの親切なおばさんとおじさんからは、いつも日本の文化と習慣について教えてもらいました。ありがとうございます。



謝晋君



華南理工大学



論文賞賞状

白川龍生助手 路面評価に関する国際シンポジウム 「優秀発表・論文賞」を受賞

(土木開発工学科)

土木開発工学科白川龍生助手は、本年6月カナダ、トロントにおいて開催された世界道路協会(PIARC)主催第5回道路及び空港の路面特性に関するシンポジウム(通称SURF)において、優秀発表・論文賞を受賞されました。SURFは、産・官・学の分野から各国を代表する道路の専門家が参加し、4年に一度開催される道路技術に関する国際シンポジウムです。今回は、約20カ国から80件に及ぶ技術論文発表が有り、そのうち6件に賞が与えられました。

この度対象となった論文は、「第二世代ウェーブレット変換を用いた路面凹凸の検出法に関する基礎的研究(和文題名):白川龍生、川村彰、中辻隆」であり、本論文が、路面に局在する損傷箇所の検出に極めて有効であり、今後の舗装路面の維持管理手法として世界各国の道路技術者に認められたものです。多くの道路先進国において、道路整備のあり方が、従来の建設型から維持管理型へと大きく変貌する中で、路面状況をより正確にモニターし、評価する技術が現在問われており、本研究の成果がそれに応える有効な手法と今後期待されております。

この度の受賞論文は、今年3月に北見工業大学より授与された博士後期課程学位論文の内容を発展させたものであり、研究内容が国際的にも高く評価されたことは、今後の研究活動を行う上で、いっそうの励みになるかと思われまます。これを契機に更なる飛躍となることを祈念致します。



シンポジウムでのスナップ写真(白川助手)

= 諸報 =

キャンパス・マスタープラン(学内施設長期計画)について

(施設課)

本学の中期目標・中期計画により、本年度中に定めることになっていたキャンパス・マスタープランを6月に策定しました。

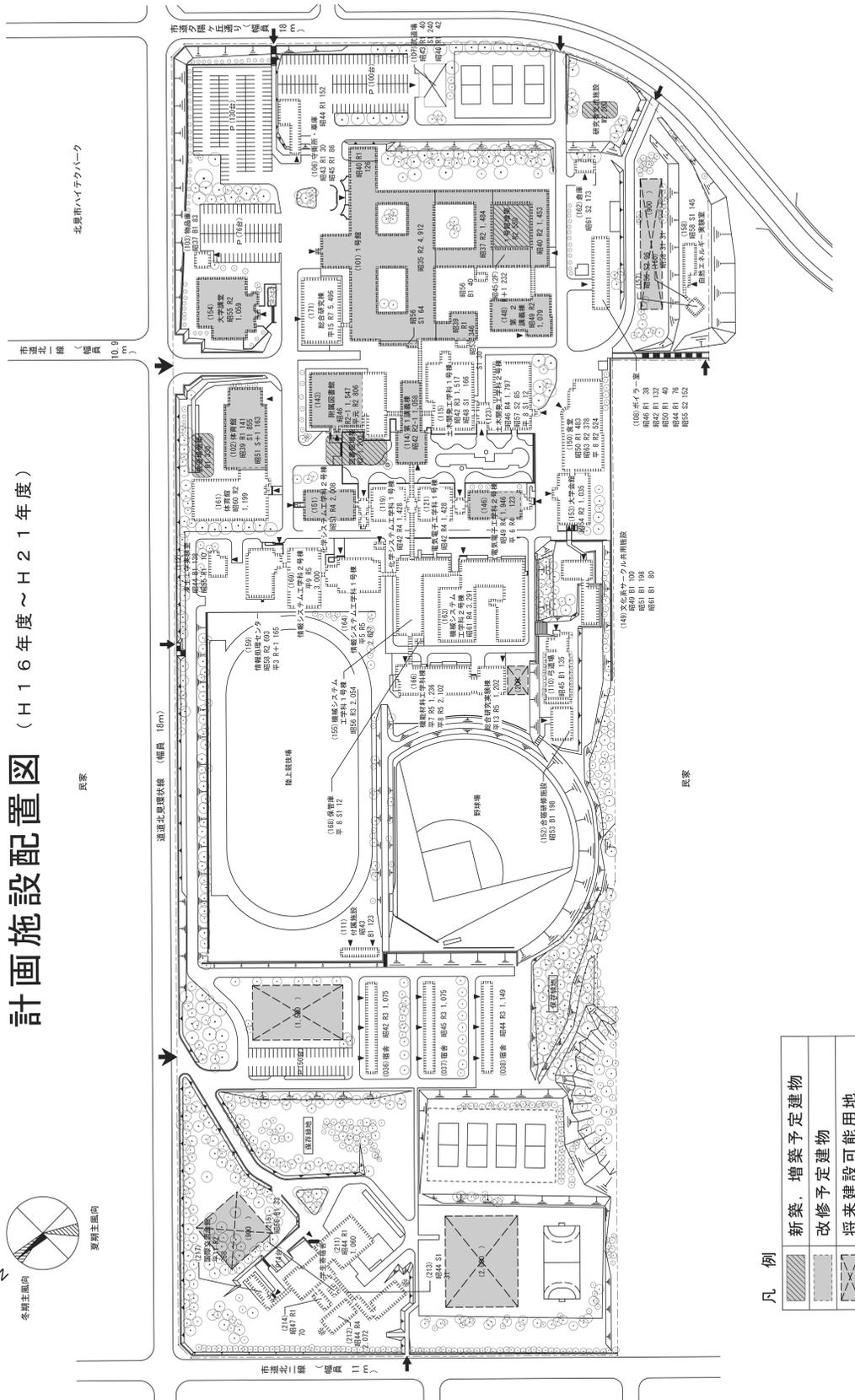
このキャンパス・マスタープランは、本学の中期目標・中期計画に掲げたアカデミックプラン(大学の基本理念:大学の目指すもの)に基づき、整備の基本方針を策定しています。

その具体的な施設整備計画としては、計画施設配置図(H16年度~H21年度)(別図参照)

に示した内容となっています。

その中で今年度は、研究者交流施設の新設を計画しており、夕陽ヶ丘通り側テニスコート横の臨時駐車場の敷地に建設することになります。

建物は、11月末頃完成を予定しており、木造(一部2階建)で延床面積200㎡程度の規模、宿泊室、交流ラウンジ等を整備する計画で進めています。



北海道中小企業家同友会オホーツク支部との包括連携実施覚書を締結

(研究協力課)

去る6月23日(水)本学第一会議室において、北海道中小企業家同友会オホーツク支部と本学は、両者の有する技術シーズと市場ニーズを相互に活用し、研究開発、製品開発、人材教育などの分野において連携し推進させることを目的として、包括連携実施覚書を締結する調印式が行われました。

本学、同友会の関係者が見守る中、北海道中小企業家同友会オホーツク支部の藤澤支部長と本学の常本学長が相互に覚書に署名押印しました。

この覚書により今後、両者で連携プログラム委員会を設置し、①共同研究・委託研究の推進、②連携公開講座の開設と広報活動、③インターンシップ事業の推進、④地域コンソーシアム事

業の推進、⑤学生および留学生の各種方法での派遣・受入、⑥リカレント、リフレッシュ教育の推進、⑦知的財産権の保全、維持及び管理、⑧学生の就職支援、⑨その他などの連携項目で事業を推進していくこととなります。

なお、包括連携プログラム委員会の本学委員は以下のとおりです。

鮎田副学長
高橋副学長
二俣知的財産本部長
鈴木地域共同研究センター長
藤原サテライト・ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー長
有田地域共同研究センター助教授

国立大学法人北見工業大学と北海道中小企業家同友会オホーツク支部 における包括連携実施覚書

国立大学法人北見工業大学(以下「甲」という。)及び北海道中小企業家同友会オホーツク支部(以下「乙」という。)は包括的な連携に関する覚書を締結する。

(目的)

第1条 甲及び乙は、両者が有する技術シーズと市場ニーズを相互に活用し、研究開発・製品開発・人材教育など相互の協力が可能な分野において、互恵の精神に基づき具体的な協力を有機的に推進することにより、産学間の連携を通して、我が国の科学技術の向上及び研究成果の社会活用を強化するとともに、広い視野を有する技術者・研究者の育成に貢献する。

(目的達成への努力項目)

第2条 甲及び乙は、本連携が双方の組織あるいは組織の構成員のみならず、我が国及び世界の人人に資するものとなることの重要性を認識し、その目的達成のために必要なすべての行動を共同して遂行するため、最大の努力を払うものとする。

(連携項目)

第3条 甲及び乙は、以下により連携推進を行うものとする。

- (1) 共同研究・委託研究の推進
- (2) 連携公開講座の開設と広報活動
- (3) インターンシップ事業の推進
- (4) 地域コンソーシアム事業の推進
- (5) 学生および留学生の各種方法での派遣・受入
- (6) リカレント、リフレッシュ教育の推進
- (7) 知的財産権等の保全、維持及び活用
- (8) 学生の就職支援
- (9) その他

(連携の範囲)

第4条 本覚書は、甲乙間で実施される連携に関し有効とする。ただし、双方は、本覚書の締結によって本覚書以外に別途覚書などを締結することを妨げるものではないこと及び本連携の実施によってそれぞれの対外活動に制約を生じるものではないことを相互に確認する。

(連携委員会)

第5条 甲及び乙は、第3条各号に定める綿密な連携協力を促進するため、本連携に係る代表構成員からなる「連携プログラム委員会」(以下「連携委員会」という。)を設置し、必要に応じて開催するものとする。

2 連携委員会の議長は、本覚書に関わる甲及び乙の代表者が交互に行うものとする。

3 前項に定める議長は、連携委員会の開催、構成員等を双方の提案に基づき定めることができるものとする。

(実施内容)

第6条 本覚書で実施する連携の実施内容は、個別の案件ごとに連携委員会での協議、承認をもって

決定する。当該案件の選定に当たっては、本連携の目的を達成するために、できる限り広範囲な連携が実現できるよう努めるものとする。

2 本覚書に基づき、共同研究及び委託研究を実施する場合には、その都度、書面による契約を締結する。

(連絡事務局)

第7条 本連携実施のため、甲及び乙はそれぞれ事務局を置く。

2 甲の事務局は研究協力課とし、乙の事務局はオホーツク事務所とする。

3 前2項に定める事務局は互いに協力して、本覚書に関わる全ての実施事項が円滑かつ効果的に運営されるよう意見交換を行い調整するものとする。

(契約等の承認)

第8条 甲及び乙は、締結が必要な契約に関しては、連携委員会で協議し、承認を得るものとする。

(知的財産権の取扱い規程)

第9条 本連携においては、実施において生じた知的財産権等の保全、維持及び活用に関して、双方にとって最善な結果を実現するため相互に協力するものとする。

2 本連携で実施される個別の案件に係る知的財産権の円滑かつ効果的な取扱いを促進するため、本覚書の趣旨に基づき、個別の案件ごとに知的財産の取扱いについて約定することができる。

(改正、疑義の解決)

第10条 本覚書の改正又は廃止等が必要な場合若しくは本覚書の運用等に関する疑義等が生じた場合には、連携委員会において審議し、決定するものとする。

(有効期間)

第11条 本覚書は、調印の日から3年間効力を有するものとする。ただし、各当事者は、本覚書の有効期間が満了する6月前までに、文書による通知がなされない場合には、本覚書は自動的に3年間更新されるものとする。

(協議)

第12条 本覚書に定める事項のほか、甲及び乙の連携推進に必要な事項については、連携委員会にて協議の上、別に定める。

以上の証として、本覚書2通を作成し、それぞれ署名押印の上、双方各1通保管する。

平成16年6月23日

甲 北見市公園町165番地
国立大学法人北見工業大学長

学本秀章

乙 北見市公園町1-2
北海道中小企業家同友会オホーツク支部長

藤澤利光

包括連携実施覚書

学長主催特別講演会の開催

(研究協力課)

去る7月28日（水）に経済産業省資源エネルギー庁電力・ガス事業部電力基盤整備課長の斉藤 健氏をお招きし、「再考：エネルギー安全保障－我が国のエネルギー政策の動向－」と題して学長主催の特別講演会が開催されました。

当日は、日本のエネルギー需給展望の他、産業界特にエネルギー関係と大学との結びつき、産学官連携等について約1時間30分にわたり講演いただいた後、活発な質疑応答が行われました。会場の総合研究棟2階多目的講義室には学生・教職員合わせて約120名の参加があり、エネルギー問題への関心の高さがうかがわれました。



斉藤電力・ガス事業部電力基盤整備課長による講演のようす

学生を対象に知的財産セミナーを開催

(研究協力課)

7月21日（水）、4年次学生、大学院学生を対象として、西澤国際特許事務所長の西澤利夫氏による知的財産セミナーが開催されました。

西澤氏は「大学の学生における知的財産権の捉え方」と題して、特許制度の概略から秘密保持の考慮すべきこと、卒業論文と特許との関係等わかりやすく講演をいただきました。

出席した学生からは多くの質問が出され、知的財産権の初歩から知財を取り巻く情勢まで深く学ぶ機会となり、より意識の高いものとなった意義のあるセミナーとなりました。



西澤氏によるセミナーのようす

大学祭に合わせキャンパス公開ツアーを実施

(総務企画課)

6月26日(土)、27日(日)に開催された第42回大学祭に合わせ、本学を広く一般市民に紹介する「キャンパス公開ツアー」が実施されました。

これは、地域の要請にも応える大学づくりを推進するための事業の一環として、大学祭という学生の祭典の場を利用し、市民に本学の特色ある研究内容等を紹介しようというねらいで初めて企画されたものです。特に理科離れが著しいとされる小学生に焦点を当て、親子での参加を呼びかけたことから、多数の市民がキャンパスを訪れる機会となりました。

公開ツアーでは、「もえる氷—メタンハイドレート—」、「乗り心地体験—ドライビングシミュレーター—」、「ふしぎな体の動き—モーションキャプチャーシステム—」及び「光のふしぎ—光学ワンダーランド—」の4テーマの他、全国ロボットコンテスト出場学生によるデモンストレーションなどが行われました。各研究室を巡った参加者の一人は、大学を市民に開かれたものにするにはこのような催しはとても良いことと語っていました。



光のふしぎ—光学ワンダーランド—



乗り心地体験—ドライビングシミュレーター—



全国ロボットコンテスト出場学生による
デモンストレーション

「オープンキャンパス」(大学説明会) を実施

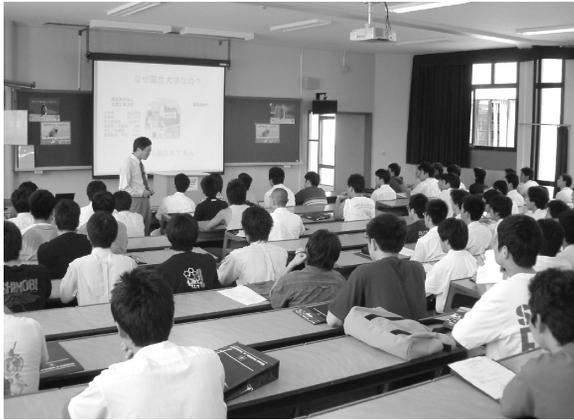
(入試課)

7月31日(土)に大学進学を希望する高校生等を対象とした大学進学説明会が開催され、道内外から高等学校教諭、父母等を含む113人が参加しました。当日は、朝から気温が高く非常に暑い1日でしたが、参加者は、暑さにも負けず熱心に体験授業等に取り組んでいました。

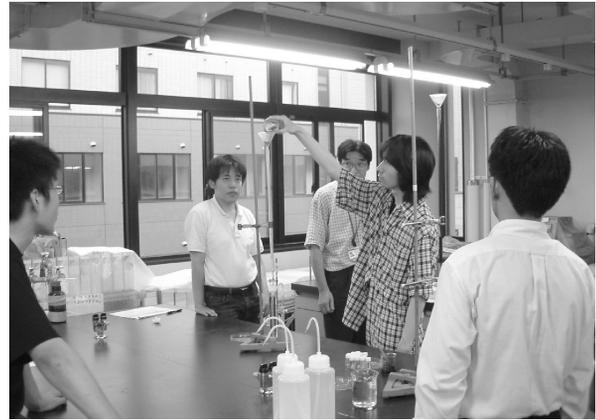
学長挨拶、高橋副学長による大学概要説明の

後、各学科において体験学習が行われました。昼食をはさみ、特別企画として、生協食堂において「工大生による学生生活相談」が実施されました。

参加者からは、「普段見られない機材が見られて、興味ももてた」「大学生活の様子を知ることが出来た」等、おおむね好評な感想が得られました。



学長の説明を真剣に聞く参加者



体験学習中の高校生



工大生による学生生活相談



施設見学にて

本学主催国際ワークショップ開催のお知らせ

(研究協力課)

本学、電気通信大学及び両大学と交流協定を締結しているハルビン工程大学と、3大学による国際ワークショップ「International Workshop on Modern Science Technology 2004」が本学主催で9月2日(木)・3日(金)に開催されます。

このワークショップは2000年9月にハルビン

工程大学で第1回が開催され、今回が第3回となるもので、本学、電気通信大学、ハルビン工程大学、武漢科技大学、慶尚大学校の5大学約70人が参加して、情報科学、バイオ・材料、エネルギー・環境、社会基盤の4分野について、総合研究棟2F多目的講義室・同7F大学院ゼミ室等を会場に行われる予定です。

= 日誌 =

(総務企画課)

6月2日	第5回教育研究評議会	7月1日	地域共同研究センター特別講演会
3日	北苑寮祭 (～5日)	5日	企画運営会議
8日	教務委員会	6日	教務委員会
9日	平成17年度編入学試験 (推薦による選抜) 実施	7日	第6回教育研究評議会 平成17年度編入学試験 (学力試験による選抜) 実施
11日	第3回経営協議会 第5回役員会 地域共同研究センター特別講演会	12日	企画運営会議 北海道中小企業家同友会との共催講演会
14日	企画運営会議	13日	入学者選抜委員会
15日	情報システム運営委員会 入学者選抜委員会	14日	第3回教授会 平成17年度編入学試験 (学力試験による選抜) 合格発表
16日	第2回教授会 第2回大学院研究科委員会 平成17年度編入学試験 (推薦による選抜) 合格発表	15日	情報システム運営委員会 地域共同研究センター特別講演会
18日	平成15年度奨学・奨励金授賞式	21日	知的財産セミナー
23日	北海道中小企業家同友会オホーツク支部との包括連携実施覚書調印式 安全衛生委員会	22日	月曜授業振替日
24日	附属図書館委員会	26日	前期定期試験 (～8月4日)
25日	休講日 (大学祭準備) 第1回就職セミナー 交通事故防止講習会	28日	学長主催特別講演会 安全衛生委員会 地域共同研究センター特別講演会
26日	第42回大学祭 (～27日) キャンパス公開ツアー (～27日)	31日	オープン・キャンパス
29日	学生委員会		
30日	業務監査		

北見工業大学学報 第204号 平成16年7月発行
国立大学法人北見工業大学
事務局総務企画課
〒090-8507 北見市公園町165番地
TEL: (0157) 26-9116
FAX: (0157) 26-9122
E-mail:soumu05@desk.kitami-it.ac.jp
本報は、インターネットでもご覧いただけます。
<http://www.kitami-it.ac.jp/issue/gakho.htm>

※この学報は再生紙を使用しています。